

移動支援（グループ支援型について）

<目的について>

現在の移動支援事業は、1人のガイドヘルパーが1人の利用者を支援する「個別支援型」を基本としていますが、個別支援型ではヘルパーの確保ができない等の声があります。

また、ガイドヘルパーの人材が十分でない状況で、障がいのある方の更なる社会参加を促進するためには、制度の効果的な運用を図る必要があります。

今般、一定の要件のもとで安全の確保を図りながら、1人のガイドヘルパーが複数の利用者を支援する「グループ支援型」を実施することとします。

なお、移動支援事業としての対象者の要件（重度の障がいのある方）や対象となる外出（社会生活上必要不可欠な外出等）については今までと変わりませんので、ご注意ください。

<要件について>

下記3つの要件を全て満たす必要があります。

- （1） 複数の利用者を支援するためには、個々の障がい特性の把握が必要であるため、グループ支援型の派遣となるガイドヘルパーに、利用者全員に対する個別支援型での派遣の経験があることとします。
- （2） ガイドヘルパー1人当たりが対応できる利用者の人数は3人未満とします。
- （3） 利用者の体調不良や事故などの緊急時への対応を考慮し、一のグループに対してガイドヘルパー2人からの派遣とします。

【例】

- ヘルパー2人 ⇔ 利用者3～5人
- ヘルパー3人 ⇔ 利用者4～8人
- × ヘルパー1人 ⇔ 利用者2人

なお、グループ支援型の始点から終点まで連続して、上記要件を満たす必要があります。

<留意点について>

事業者においては、グループ支援型の派遣を実施する場合は、下記事項に留意してください。

(1) 各利用者からの意向に基づく派遣であること

事業者側の意向で、複数の個別支援型の派遣をグループ支援型へまとめる等、利用者からの意向に基づかないグループ支援型の派遣は認められません。

(2) 訪問日時や移動手段、交通費等の費用、帰宅予定時間等について、各利用者と十分に調整すること

訪問の日時や場所、移動手段、交通費等の実費等について、それぞれの利用者に確認して、十分な調整を行ってください。また、ガイドヘルパー分の交通費も利用者の負担となりますので、各利用者間の負担割合等も調整してください。

(3) 前号の内容等を含めた派遣計画書を作成して、安全かつ適切な外出支援となるよう入念に準備すること

個別支援型とは異なり複数の利用者を同時に支援するため、より安全性の確保が求められます。従って、行程等を盛り込んだ派遣計画書を作成して、安全かつ適切なグループ支援型派遣となるよう、入念な準備を行ってください。なお、当該派遣計画書の作成状況については、必要に応じて確認させていただきます。

※ 派遣計画書の様式は任意ですが、雛形（別紙）を示していますので参考にしてください。

(4) 事故時における連絡体制やガイドヘルパーの応援派遣等、緊急時に対応できる体制を備えること

<安全性の判断について>

各事業者において、

- ・利用者の障がい特性や心身の状況
- ・派遣するガイドヘルパーの技能
- ・各利用者に対する個別支援型での派遣回数
- ・ガイドヘルパー1人当たりの利用者の数（※）

- ・目的地や行程

等から、安全な外出支援が可能かについて、総合的に判断してください。

※なお、ガイドヘルパー1人当たりの利用者の数については、ケガ等で1人の利用者に専念しなければならない事態が生じた場合の対応も視野に入れ、適切な人数割合としてください。

<利用形態について>

複数の利用者を支援するところからグループ支援型となります。従って、それまでは通常の個別支援型となる場合もあります。

<報酬単価について>

グループ支援型を実施している他の政令市の状況等を参考に、個別支援型の報酬単価の概ね7割としています。

<報告について>

現行の移動支援事業提供実績記録票については、個別支援型とグループ支援型とでそれぞれ別の欄（行）に記載するとともに、グループ支援型については備考欄に「グループ」と記載してください。

また、定期的な提出は求めませんが、グループ支援型の派遣を実施した場合は実績記録を作成してください。なお、必要に応じて確認させていただきますので、派遣計画書とともに保管しておいてください。

※様式は任意ですが、雛形（別紙）を示していますので参考にしてください。

Q & A

Q 1 身体障害者もグループ支援型の対象となるのか。

A 1 知的障害等の特定の障害に限定している訳ではありませんので、身体障害者も対象となり得ますが、車椅子を押す等の対応が必要な場合では、1人のガイドヘルパーが複数の利用者を支援することは困難と思われます。

Q 2 身体介護「有り」の方もグループ支援型の対象となるのか。

A 2 身体介護「有り」の方と「無し」の方でグループが構成される等、様々な利用形態が考えられますので、一概に身体介護「有り」の方を対象外とはしていません。
但し、身体介護「有り」の方に対する具体的な支援内容等を勘案して、グループ支援型として安全な外出が可能かどうか、適切に判断する必要があります。

Q 3 複数の利用者をまとめて自家用車で支援する場合は、グループ支援型の対象となるのか。

A 3 そもそも移動支援事業においては、ガイドヘルパーが運転している時間は報酬の対象外となっています。加えて、自家用車で支援は、事故時の責任問題等もありますので、事業者と利用者との間できちんと協議した上で対応する必要があります。

また、自家用車内での支援もグループ支援型の対象となりますが、その場合でも上記の要件が適用されますので、ご注意ください。

Q 4 一つのグループに複数の事業者からガイドヘルパーを派遣してよいのか。

A 4 ガイドヘルパー間の連携や責任の所在の明確化等から、報酬の対象となる一つのグループに対しては、同じ事業者からガイドヘルパーを派遣することとします。

Q 5 別々の場所にいる利用者を順番に迎えに行く等するため、個別支援型とグループ支援型とを一体的に実施する場合、利用時間（請求単位）はどのようなになるのか。

A 5 まず、実施した時間の合計時間を算出した上で、下記のとおり取り扱います。

① 30分単位ごとの端数の時間が多い方を切り上げ、少ない方を切り下げる。

② 30分単位ごとの端数の時間が同じ場合は、グループ支援型の利用時間を切り上げる。

【例①】	(端数)		(請求単位)
個別支援型	40分 (10分)	⇒	30分 (30分未満)
グループ支援型	1時間20分 (20分)	⇒	1時間30分 (1時間以上1.5時間未満)
計	2時間00分	⇒	2時間00分 (1.5時間以上2時間未満)

【例②】	(端数)		(請求単位)
個別支援型	45分 (15分)	⇒	30分 (30分未満)
グループ支援型	1時間15分 (15分)	⇒	1時間30分 (1時間以上1.5時間未満)
計	2時間00分	⇒	2時間00分 (1.5時間以上2時間未満)

【例③】	(端数)		(請求単位)
個別支援型	55分 (25分)	⇒	1時間00分 (30分以上1時間未満)
グループ支援型	1時間15分 (15分)	⇒	1時間00分 (30分以上1時間未満)
計	2時間10分	⇒	2時間00分 (1.5時間以上2時間未満)

【例④】	(端数)		(請求単位)
個別支援型	50分 (20分)	⇒	30分 (30分未満)
グループ支援型	1時間20分 (20分)	⇒	1時間30分 (1時間以上1.5時間未満)
計	2時間10分	⇒	2時間00分 (1.5時間以上2時間未満)

Q 6 個別支援型とは別に、グループ支援型としての支給決定（支給時間等）があるのか。

A 6 利用方法として個別支援型とグループ支援型があるだけであって、別途グループ支援型の支給決定はありません。既存の支給決定の中で利用できます。

Q 7 グループ支援型では、対象者要件や利用目的（対象となる外出）等が変わるのか。

A 7 今までと変わりません。移動支援事業（全体）として、対象者要件（重度の障害者）や対象となる外出（社会生活上必要不可欠な外出等）はそのままです。

Q 8 グループ支援型を実施した場合の請求において、「移動支援サービス提供実績記録票」に記載すべきことはあるのか。

A 8 グループ支援型の支援を実施した場合は、「移動支援サービス提供実績記録票」の備考欄に「グループ」と記載してください。